

海蔵あくら



四日市市立海蔵小学校
校長室 だより
令和5年1月16日
第11号
文責 校長 柳川 洋史

何もしないことは…

始業式で次の童話をもとに、子どもたちと考えあう時間を持ちました。

「だから わるい」

オセーエワ作 西郷竹彦 訳

一匹の 犬が、からだを まえにかがめて、はげしく ほえたてています。
そのすぐ はなさきに、垣根にぴったり と からだをよせて、
一匹の 小ネコ が、毛を さかだてて ふるえています。
かーっと 口をあけ、ニャーオ、ニャーオと ないています。
すぐそばに、ふたりの男の子がたって、どうなることかと みていました。
まどから、それをのぞいていた女の人が とぶようにして、
かいだんから かけおりてきました。
女の方は、犬をおっばらうと、男の子たちを しかりつけました。
「あんたたち、はずかしく ないの！」
「どうしてはずかしいの？ ぼくたち なにもしていないよ！」
男の子たちは、びっくりしたように、いいました。
「だから わるいのですよ！」
女の方は、まっかにおこって いいました。



例えば、目の前で友だちがケンカしていたとします。人ごととして眺めているのではなく、何らかの行動を起こす人になってほしいと思います。そんなことを考えさせてくれる童話です。

子どもたちには、下線部分を隠して提示し、「だから悪い」の理由につなげて考えあいました。「見ていただけなのに」「何もしていないのに」等々、子どもたちなりに、行動しなかったことが悪い理由であることに、多くの子が気づき始めました。

2学期終業式では、「無視」が相手を傷つけること、「ありがとう」「大好き」等の言葉は、相手を元気にすることを話しました。そのことにも触れ、人ごととして眺めているのではなく、何らかの行動を起こす人になってほしい願いを伝えました。

「何らかの行動を起こす」とは、童話のような場面だけではありません。登下校時に会った人に「おはようございます」「さようなら」と、自分から挨拶できることも、大切な行動です。まず、身近な一歩から行動できる人になってほしいと思います。